

# きらり阿波女

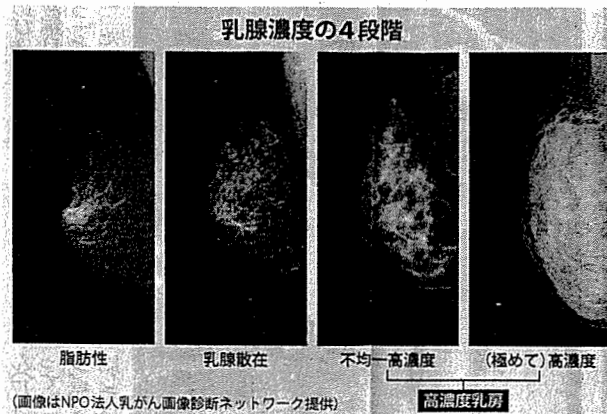
## 「高濃度乳房」知っていますか

### 乳がん検診マンモで見逃すことも

女性の1人に1人が生涯で罹患する乳がん。近年、マンモグラフィ(乳房X線)検査だけでなく、異常が発見され、マンモで見逃すことも。10月は乳がん検診や治療への理解を深めようという「マンモ月間」。乳がん検診について取材しました。

## 「超音波」併用に期待

記者(2017年)月末、県内の医療機関でマンモと超音波検査による任意の乳がん検診を受けた。マンモは石灰化した部分が見つかったが良性とのこと。超音波では左乳房に小さな水疱が発見された。医師には異常がなければ「検診を済ませよう」と勧められた。マンモと超音波の併用は、乳がん検診の精度を上げる。マンモで見逃すことも減る。マンモと超音波の併用は、乳がん検診の精度を上げる。マンモで見逃すことも減る。マンモと超音波の併用は、乳がん検診の精度を上げる。マンモで見逃すことも減る。



乳腺濃度の4段階 (画像はNPO法人乳がん画像診断ネットワーク提供)



- マンモグラフィ
  - 高濃度乳房だと腫瘍を見つけにくい
  - 石灰化を見つけやすい
  - 40才以上なら自治体検診あり
- 超音波検査
  - 高濃度乳房でも腫瘍を見つけやすい
  - 技師の技量に左右される
  - 妊婦中も検査可能

### 乳腺濃度の通知

県内市町村の乳がん検診では、乳腺濃度を通知する自治体は、ほとんどない。医師はマンモの画像を見て、乳腺濃度を判断する。乳腺濃度は、乳腺の脂肪と乳腺組織の割合を示す。乳腺濃度が高いほど、乳がんのリスクが高くなる。乳腺濃度を通知する自治体は、ほとんどない。

### 県内自治体はなし

県内市町村の乳がん検診では、乳腺濃度を通知する自治体は、ほとんどない。医師はマンモの画像を見て、乳腺濃度を判断する。乳腺濃度は、乳腺の脂肪と乳腺組織の割合を示す。乳腺濃度が高いほど、乳がんのリスクが高くなる。乳腺濃度を通知する自治体は、ほとんどない。

### 年齢やリスク考慮

乳がん検診を受ける年齢は、年齢やリスクを考慮して決める。40歳以上の女性は、自治体の乳がん検診を受ける。50歳以上の女性は、マンモグラフィ検診を受ける。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。

### 笹三徳院長に聞く

乳がん検診を受ける年齢は、年齢やリスクを考慮して決める。40歳以上の女性は、自治体の乳がん検診を受ける。50歳以上の女性は、マンモグラフィ検診を受ける。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。

乳がん検診を受ける際には、「利益と不利益のバランスを考えた」と森本を勧誘は話す。不利益の一つは、進行が遅れ、長期放置しても寿命に影響しないが、発見が遅れる。発見が遅れると、治療が難しくなる。発見が遅れると、治療が難しくなる。

### 「マンモ」だより

40歳以上の女性なら原則1年に1回、市町村の乳がん検診を受けられる。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。乳腺濃度が高い人は、検診を受ける年齢を早める。

自治体検診は対象となる集団の死亡リスクを低くする目的で実施される。しかし、超音波を併用した場合に死亡率が下がるとは、現時点でマンモに比べて超音波が採用されるのは難しい。診断の精度の問題もある。超音波は動画で見ると、検診する人の技量が結果を左右する。マンモは、乳がん検診の精度向上のため研究・認定を行うNPO法人「日本乳がん検診精度管理中央機構」の監事を務める森本忠典・徳島大名誉教授は「超音波に関しては、研究を経て認定を受けた人材が限られている」と指摘する。任意で受ける場合も、費用がかかる。マンモは無料だ。